

サンゴ礁の再生に向けた官民一体となった取り組み ～石西礁湖自然再生協議会の紹介～

国土環境研究所 環境技術グループ 黒川 忠之

沖縄県の石垣島と西表島の間広がる日本最大規模のサンゴ礁域である石西礁湖^{せきせいしょうこ}で、官民一体となったサンゴ礁再生に向けた取り組み(石西礁湖自然再生協議会)が進んでいます。当社では、このような協議会やワークショップの運営をお手伝いいたします。

はじめに

石西礁湖は、沖縄県の石垣島と西表島の間広がる、南北約15km、東西約20kmの日本で最大規模のサンゴ礁です(写真1)。



写真1 石西礁湖の航空写真

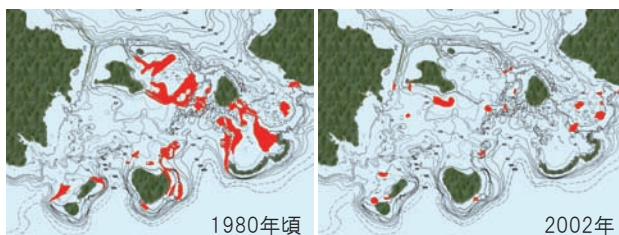
石西礁湖には、約360種のサンゴが生息しており、さまざまな生物の採餌や繁殖の場としても利用され、石西礁湖の生態系の基礎となる重要な生物です。

また、石西礁湖は海の生物にとって重要なだけでなく、地域住民にとっても、魚介類を与えてくれる恵み豊かな海であり、美しい安らぎを与えてくれる海でもあります。

さらに、離島が多く、交通手段は主に船舶となることから、多くの船の往来があり、ダイビングも行われるなど、自然環境が豊かであり、しかも、多種多様な関係者により、高度に利用されている海域でもあります。

しかし、このサンゴが近年衰退しています。

図1は1980年頃と、2002年のサンゴの被度(サンゴが海底を覆っている割合)が高い所を赤色で示したものです。



(※図の赤い部分はサンゴの生育がよいところ)

図1 サンゴの被度の変遷

この衰退の原因は陸域からの赤土等の流入、オニヒトデ等による食害や高水温による白化などさまざまな要因が考えられています(写真2)。



写真2 衰退の要因例

自然再生協議会とは

このように衰退しているサンゴを何とか元の元気な姿に取り戻したいという思いを持った人々が集まり、環境省那覇自然環境事務所、沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課が事務局となって、2006年2月に「石西礁湖自然再生協議会」(以後、「協議会」と言う)が発足しました。

協議会は、自然再生推進法という法律に基づき設置されたもので、石西礁湖の自然再生に向けた取り組みを行うために以下の事を行っています。

- (1)石西礁湖自然再生全体構想の作成
- (2)石西礁湖自然再生事業の実施者による実施計画の案に関する協議
- (3)石西礁湖自然再生事業の実施に係る連絡調整
- (4)その他必要な事項の協議

「石西礁湖自然再生全体構想」とは、石西礁湖自然再生の全体的な方向性を定めるもので、自然再生の対象となる区域や目標、自然再生を進めるうえでの基本的な考え方やその具体的な取り組み方法及びその取り組みを行う役割分担などが書かれています(図2)。

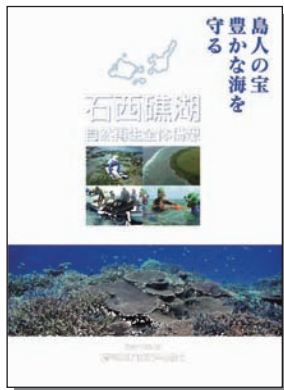


図2 石西礁湖自然再生全体構想

ページ(<http://shizensai.com/>)に掲載されています。

協議会の様子

協議会には94の個人・団体が集まっています(2008年3月31日現在)。協議会では、科学的認識の下、共通の認識を持ってサンゴの再生が行えるように、最新のサンゴの状況の紹介や各種取り組みの現状についての説明が行われました。

こうした、最新のサンゴの状況を把握したうえで、委員各自のサンゴに対する思いや自然再生を行う際の問題点等について、グループディスカッション等を通じて合意形成を図り、まとめてきました。

また、委員のみならず、広く一般の方々にも石西礁湖のサンゴの状況について知ってもらうために、さかなクンを招いたトークショーや地元の海人(ウミンチュ:漁師)や専門家による講演会の実施や実際に海に潜ってサンゴを観察する観察会なども開催してきました(写真3)。



写真3 協議会の様子

協議会と当社の係わり

当社は、環境省那覇自然環境事務所より協議会の運営業務を受託し、発足段階から協議会運営をお手伝いさせていただいております。

協議会の運営は、協議会委員の募集から始まり、参加者の取りまとめ、会場の手配、資料の作成、協議会当日の進行、議事録作成、広報資料やホームページの作成、委員意見の取りまとめなど、さまざまな作業があります。

また、協議会にはさまざまな立場の方々に参加しています。そのため、参加人数が多い協議会では、議論的のがうまく絞れない、声の大きい人の意見が通ってしまうなどの問題が時として発生してきます。さらに、委員のモチベーションを保つための工夫も必要となってきます。

そこで、当社ではさまざまな意見を抽出し、建設的に議論が進むような方法を提案し、協議会の運営をお手伝いさせていただきました。例えば、初めての協議会では、どのような立場の人がどのような意見を有しているのかわかりません。

そこで、全ての人の意見を抽出し、各人の思いを共有化するために「意見記入カード」を委員全員に配り、その場で自分の思いを書いてもらい、会場前面のボードに貼り付けてもらいました。

このカードを委員全員で見ながら共感できる意見に赤いシールを貼り付けてもらいます。赤いシールが多かったカードほど、皆が共通して感じている思いとなります(写真4)。



写真4 意見抽出の様子

このように、議論の成熟の度合いに応じ、テーマを絞ったグループディスカッションの実施、現地視察のコーディネート、専門家への講演依頼など、協議会の運営をサポートさせていただきました。

おわりに

昨今は、環境行政のさまざまな場面で地域住民を交えた合意形成が必要となっております。また、合意形成の過程や結果はすばやく情報公開することが求められます。

当社では、協議会の運営のみならず、さまざまなワークショップや委員会等の運営の実績がございます。

これらの経験を活かし、合意形成が必要となるさまざまな協議会、ワークショップ、委員会等のお手伝いをさせていただきます。